

宇都宮商業會議所月報

第八拾八號

稟告

一 商工業の進歩發達を促すべき事實又は法律命令
其他に商工業の發達を阻害する事情あらは速に
其狀況并に之に對する御意見等御一報あらんこ
とを望む

一 商工業に關し獎勵すべき習慣若くは矯正すべき
弊習等御認めの場合には細大とかく御報知あらん
ことを望む

一 地區内商工業組合の組織に關しては當所は出來
得る限り斡旋盡力すへし若し之れか組織の必要
を認められたる場合は申出られたし

一 地區内商工業組合にして總會又は役員會々場に
充つる爲め會議室の使用を望まると向に對して
は無料にて貸與し且つ當所の事務に支障を來さ
ざる限り其事務をも補助すへし

一 地區内商工業者各位にして商工業に關する事項
に付諸官廳其他に對し本會議所の照會又は紹介
を得んことを望まるとる場合は遠慮なく申出られ
たし

一 本會議所は商工業者各位の時々來所高見を演述
調査研究の資料を供給せらるゝを切望す

一 本會議所には官報、通商彙纂、商標公報、特許
公報、實用新案公報、山林公報、各地商業會議
所報告書其他商工業に關する各種統計及諸般の
有益なる圖書備付あり商工業者各位の隨時來所
閱覽あらんことを望む

宇都宮商業會議所

資本金貳百萬元



株式會社 下野銀行

東京支店 東京市日本橋區横山町二丁目
電話 浪化一八二〇番

日光支店 下野國日光町
電話 二〇〇番

下野國宇都宮市大工町
電話 二二三番

眞岡支店 下野國眞岡町
電話 三〇〇番

新石町支店 宇都宮市新石町
電話 三四〇番



株式會社 宇都宮銀行

定期預金 六ヶ月以上年五分

別段當座預金 百圓三付日歩九厘

當座預金 百圓三付日歩八厘

貯蓄預金 年四分八厘

全材木町支店 (電話 二二三番)

全尾尾支店 (電話 四四〇番)

全足尾出張所 (電話 八八番)

●諸貸附、割引、爲替、荷爲替、代金取立
總テ精々御便利ニ取扱可申候

行發日十二回一月毎

定價部金參錢

郵稅部金五厘

廣告料其二字請
一行金十錢〇特
別廣告ハ三割増
約ハ一月以上特

印刷所 宇都宮市旭町二丁目
電話 二五五番

印刷所 宇都宮一條町七番地
電話 三六五番

編輯人 荒川義典

印刷人 秋山錦次郎



合名會社 安田銀行

資本金 五百萬圓

積立金 三百餘萬圓

諸預金 二千六百餘萬圓

宇都宮市大工町四十八番

本店所在地 日本橋區小舟町三丁目九番地

支店出張所 貳拾壹ヶ所

各地送金 無手数料

(電話百五十番)

弊館撮影の眞寫は
畏くも再度の天覽の榮光賜ふ

器械の完全せはる東北一

宇都宮市旭町壹丁目

三光館

寫眞店 眞光館

電話 三二二番

主館 山縣源吾



富國策としての労働尊重

労働は一國産業の基本あり。故に産業の興起隆盛を計るが爲めには必ずや重きを労働の置き、大に労働を保護し、労働を整理し、労働を奨励し、更らに大に労働者の待遇を改善して其地位を進め、以て大に労働の効果を増進せしむる方法を講せざるべからず。

にして此労働を賤し、之に身を委ぬるを欲せざらんか、國を富まさんと欲するも夫れ何に由りて此目的を達すべき。近年我國の教育は大に普及し學藝の進歩著しき者あり、而かも其割合に生産の進歩を見ず、世界の富の競争に於て我れ常に數歩を海外諸國に輸しつゝある所以の者、無論他に種々の原因あるべしと雖も、我國民が上下を通じて労働を賤しむる舊習慣に捕はれ、教育あり才力ある有爲の人材をして労働界に其實力を發揮せしむるの機会を杜絶したると、慥に其大原因を爲すものたる事を疑はず、此の點より之を見れば、我國民一般の思想及感情に於て労働を卑しむるの習慣あるは、實に我産業發達の重大な防害を爲す者にして、今日に至る迄其の國民の經濟を毒する幾何なるを知るべからず。

理極まる者が尙社會に強大なる勢力を保ち得る所以の者は、人々皆舊慣の奴隷たるか爲めのみ、然れども斯の如き舊慣の奴隷たる結果が、我産業發展の重大な防害を成し、其の國家の經濟を毒すると甚しき者なるを知らば、斯る舊慣は一日も速に之を打破するを要す。

本邦大豆の消費別

農商務省が最近各地方廳をして調査せしめたる本邦大豆の用途別及び消費額は次の如し△味噌製造用 二百八十一万三千八百三十六石四斗八升二合にして全國に於ける一ヶ年間消費すべき味噌の總額は一億五千六百三十二万四千二百四十九貫目あり(一貫目の原料大豆一升八合)△豆腐製造用 八十九萬三千五百五十八石七斗一升八合にして全國に於ける一ヶ年間の豆腐製造額は六千六百九十四万四千二百六十四貫あり(一貫目の原料大豆一斗三合三勺)△醬油醸造用 六十万石にして全國に於ける最近三ヶ年平均醬油の醸造高は百九十二万四千石あり、(醗六十五石二斗の原料大豆約二十石の見積)△油粕製造用 七万四千三百九十石にして大豆油粕三十二貫二百五十石を出産し得る割合あり△緑肥種子用 十八万二千四百八斗あり△肥料用 四十二万七千二百五斗あり即ち味噌製造大豆は全量の半數以上を占め豆腐醬油等順次に亞ぐ此外尙ほ菓子、煮豆、豆粉等食用に供すべきもの種々あれども其數量は約二十一万石以内なるべしと云ふ

夜業の影響

聯工の徹夜業を如何にすべきかは工場法案の研究に伴ふ近時の一問題にして職工に肺病肋膜炎其他諸種の疾患多きは主として徹夜業の爲め完全なる睡眠を取ることが得ざるに原因する由あるが徹夜業の體量に及ぼす影響に關し農商務省が一二年續會社に就き調査したる所は左の如し

Table with columns for Prefecture (府縣名), Current Year (本年三月), and Previous Year (昨年同月). It lists various prefectures and their corresponding values for a specific metric, likely related to the 'Night Work' section.

預金趨勢

各種銀行預金は今や全國を擧げて沿々増加せざるなきの趨勢として一般金融界は之が爲めに益々緩漫の傾向を深からしむるに至れり今或る筋の調査概算書に基き各府縣銀行(特種銀行の分を除く)に於ける預金の消長を見るに左の如し

庶務

- 明治四十三年七月中執行シタル事務左ノ如シ
一 收受文書 自第一五九號 一百六十九件
一 發送文書 自第一二九九號 十二件
一 雜件 自第一四七號 二百二十三件
合計 三百四十四件

重要事項

- 一大町石綱弘藏ノ依頼ヲ受ケ米澤及山形ニ於ケル生數、價格、産額並販賣業者ノ氏名ヲ調査ス(七月四日)
一 第十四師團經理部ヨリ照會ヲ受ケ糧秣ノ價額ヲ調査回答ス(全日)
一 宿野町篠原久兵衛ノ依頼ヲ受ケ昨年十月以降最近ニ至ル滿韓ヨリ輸入スル荳油及全油原料ノ數量價格ヲ調査ス(七月六日)
一 議員選舉權者名簿査閱及縦覽期間決定ノ爲メ役員會ヲ開會ス(七月八日)
一 本月十一日ヨリ向フ十四日間議員選舉權者名簿縦覽ニ供スル旨公示ス(七月九日)
一 明治四十二年度經費決算明治四十三年度積立金豫算ノ件ニ關シ役員會ヲ開會ス(七月廿七日)
一 定期總會開會明治四十二年度經費決算剩餘金基金編入、明治四十三年度積立金豫算、商業會議所聯合會議事報告、宇都宮小山間鐵道複線建設建議ノ五件ヲ決議ス(七月廿日)

處世の第一法

徑路なき處は、一步を留めて人の行くに與へ、滋味濃やかなるときは三分を減して人の嗜むに讓る此は是れ世を渡る一の極安樂法なり。(榮根)

大水被害

連日の降雨何時露るべく見えず縣下の各河川は増水の報を傳へ沿岸の住民は戦々競々たる折柄十日午後七時頃より襲來せる暴風雨は刻一刻と暴威を逞ふし凄慘を極むること數時間中にも十二日午前二時頃より同五時に至る間最も強烈な暴風雨に本市の如き前日(十日)夕刻までは田川釜川何れも増水二三尺に過ぎざりしに物凄くも暗を衝いて襲來せる濁浪は午前四時頃より見る／＼岸を浸し街路に溢れ人家に浸入し遂に不幸明治八年の大洪水以來會て見ざる大水害を現出し悲惨なる光景を呈するに至れりいでや各方面に亘りて其惨況を録せん

眞に寢耳に水は是れ

田川を背にせる清水町小袋町附近には俄然午前四時頃より濁流押し來りければ眞に寢耳に水と見えはれにて中には背を水に浸されしに驚き起り出たる者さへある様の騒ぎにて家財道具を取り片附んとあせり騒ぐ間もあらず一刻一刻と増水し來り其急劇なる忽ちにして床を没し濁流室内を押し流る始末をれば大半家財を汚水に浸されしも今は之を取り片附けん術もかくひたすら老幼婦女を避難せしむるに急にして其騒擾一方から折柄警鐘の乱打に集り來れる消防隊は必死とありて防水作業に従事せしも浸水箇所は時々刻々に擴まり仙波方面の水田は一面の大海原と化し濁流は益々猛威を逞ふして氾濫し大工町通の如き深き溝を没するに至り小袋町上河原町切切町は一大急流を現出し其中を危険を冒して家財道具を持ち運ぶもの老幼を援けて避難するもの右往左宛宛然然然の夫れも雷からす中にも小袋町の如きは層一層の凄慘を極め激流道路を破壊し塙を押し流し家屋を傾け午

洪水と白米の供給

由來宇都宮市の食料白米は殆ど市内水車業者の揚精する所に仰げるに去る十一日稲有の大洪水に襲はれ水車は何れも大損害を被り運轉する能はざるに至りたりければ白米の供給不足を告げ精米商は常得意ならずれば取引を謝絶すとか一俵二俵といふ需めには應ずる能はざるに至り價格は圓に一升騰貴せりとか或は二升騰貴せりとか傳へられ頗る不安に堪へざるものありしを以て本所に於て十六日當日現在の市内米穀の供給状態如何と大体から調査せしに玄米の現存せるもの約六千俵當時市内一日の精白高約百六十俵(百俵は普通精米)に氏家驛寶積寺驛等より輸入する白米平均一日八十俵を加へて一日二百四五十俵以上の白米は供給し難きをを知るを得たり然るに市の白米需要高は市の飯米のみにて約四百俵あるべく之に附近村落に於ける労働者等に供給するものを合算するときは一日約五百俵の需要高に上るべく總算せらるゝを以て實に當時に於ける白米の供給高は需要の半を幸く充し得るに過ぎざる状況ありしかりしが不運にして此上降雨續き再び出水する様のごと之れ有らば白米の供給を如何にして仰がんかごは當時頗る憂慮に堪へざりし所ありしが幸に降雨少く漸次減水し程なく米價も水害前と著しき逕庭なきに至りて止みしは幸なり

水害と市況

不景氣といひ舊盆には相當の實入あるへしと各商店何れも待ち構へ居たる甲斐もなく降りつゞける霖雨に待たざる不慮ありしかは農民秋作を氣遣ひ既に／＼痛く購買力を殺げざる所へ益數日前俄然稀有の大洪水に襲はれ交通を遮断されし始末を是れ市場は例年に曾て見ざる大不況にて寂寥此上差して市況を賑はしたる様も水害後に於ける當市は北は福島北前は古河栗橋間の汽車不通の

前十一時頃増水の絶頂に達したる際には寶藏寺前の道路の深き胸部を没し危険の爲め一時上河原町より宮の橋に至る交通を絶つに至りたり

押切橋及長橋の流失

押切橋には消防の一隊走集へ必死とありて流失防禦に盡力せし甲斐もなく逆巻く激浪に堪へずしてアワトといふ間もあらず午前九時半頃凄まじく音して押し流され其下流に架せる長橋に衝突せしかば何か堪らんト支へも支へずして之をも諸共渦巻く濁流に巻き込みて流失せしめたるは其物凄さ人をして慄然たらしめたり

釜川の氾濫

釜川は縣廳前なる御幸橋にて平水より五尺餘の増水とありしが壽町梅泉横町の橋梁流出し尾上町より泉町に通ずる橋に引きかゝりければ見る／＼逆流を始め尾上町泉町壽町に浸水し増水急激なりし爲め中には一物も取り出すを得ずして家財の全部を汚水に浸したるものさへありしといふ釜川の沿岸なる釜川の宮は土地低く加ふるに水車の在る方面に向ふて押し込む水は排出の道なき爲め見る／＼氾濫し附近の家屋に浸入し小屋を押し流すなど物凄さいはん方なく不意を喰つて逃げまどへる老若婦女子が悲鳴をあげて救を求むる様など土地か土地柄丈(此處は下等料理店多き所)一時はかゝの騒ぎあり

より洪水來れる田川の濁流を加へたりければ煙草製造所敷地以南は一面の泥海と變し全敷地の如き深き胸部に達するに至りたり

新川方面の氾濫

Table with 2 columns: Location, Status. Lists locations like 西大寛町, 境町, 茂登町, etc., with numerical values indicating flood levels or status.

駝馬

或時よく走る馴風が駝馬を見ていひますに「世間の人はいよく走るぞ云ふがあれは走るのではない、飛ぶのである」又駝馬はよく飛ぶのではない、あれは走るのだ。何事よらや見様よらよって品評は違ふもの

役員會

明治四十三年七月八日午後四時開會役員選舉權者名簿を決定す午後五時開會七月十日全廿五日迄ト決定す午後五時開會七月十日全廿五日迄ト決定す

定期總會

明治四十三年七月廿九日午後六時開會定期總會提出すハキ議案タル明治四十三年度積立金豫算案業會議所聯合會ノ議事報告ヲ件ト決定シ來ル月廿九日開會ス出席者 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

議長 吉田源吉郎 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉 村上 演吉

て芳香佳味且つ
 廉價なり江湖の
 諸君奮て御試用
 あらん事を乞ふ



菊の友は原料を
 精選し學理を應
 用し最も斬新な
 る醸造方法にし

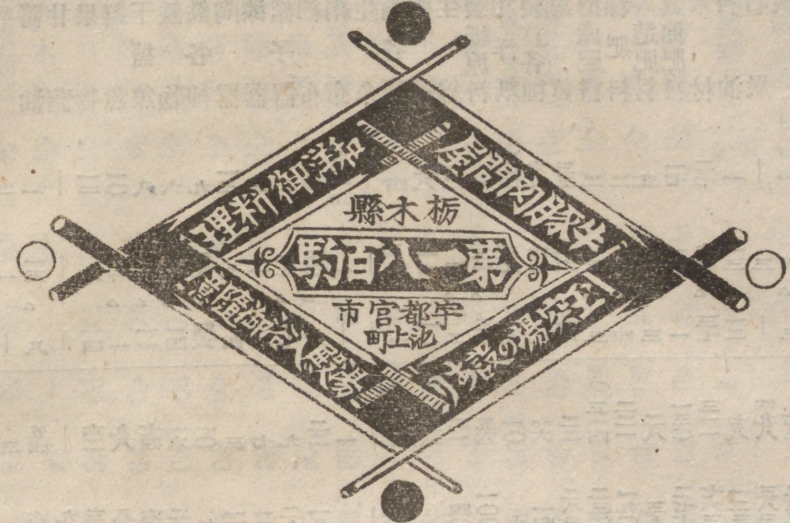
關澤商店陳列館

- ▲宇都宮市の中央二荒山神社の坂下ゆへ土産物御求よは至極御便利であり升
- ▲獨立の勸工場にて市中無類第一の廉價正札附に致してあり升
- ▲流行品は他店に魁くるは申す迄もな
- く花客様にて御承
- 知の筈であり升
- ▲品が善く
- て直が安
- く有る品は
- ゆる品は
- 取揃てあ
- ります



宇都宮市川向町
 下野倉庫株式會社
 電話 一四八番

牛肉の原料は有名なる
 戸米澤豚肉は海外より
 種のを選み品質精良
 格低廉衛生經濟富強兵
 に缺ざる日常食品の親玉



電話 二百二番 七百六番

和洋御料理及天麩羅原
 は元濱方と特約日々新
 ののの選み直輸入風味
 と衛生を重んじ御手輕
 迅速は最も第一の特色

内外肥料天

手塚豊吉
 宇都宮市上河原町
 電話 二三一 (テカ) 又ハ (チ)

大阪硫曹株式會社製製品特約販賣
 關東硫曹株式會社製製品特約販賣
 ●各種取揃へ有之候ニ付御用命奉願上候
 ●見本ハ御一報次第ニ早速御送可申上候

株式會社寶積寺銀行宇都宮支店
 諸貸附引爲替尙爲替代金取立確實ヲ旨トシ精々御便利ニ取扱申候
 電話 三五番 電路 (ホウ)

宇都宮市宿郷町三番地
 本店 電話 二〇七番
 支店 東京府北平住中組五八五番地
 電話 下谷一八八三番



營業品目

藥品 賣藥 醫療器械
 理化 學 器 械
 寫真 器械 附屬 一式
 コンデンスミルク 特約店

宇都宮市馬場町
 木村作次郎
 電話 一七番
 日光中鉢石町
 木村支店
 電話 百十一番

海陸產肥料各種
 入山石炭各驛一手販賣
 好間石炭各驛一手販賣
 無煙炭各種大販賣

宇都宮市石町
 針屋村上濱吉
 電話 三三番

和紙、土佐、駿河、石見、美作等ノ産紙、悉ク全地直輸入ニ付中、各地タル東京、若クハ大阪ノ手ヲカラ、ス故ニ兩都ノ相場ニ相勉メ可申候。洋紙モ舶來紙ヲ始メ内地各製造會社ノ攪定ニ係ルモノ一切取揃有之候ニ付和洋共出精販賣可仕候間御用命奉願上候

和紙卸高上油屋紙店
 宇都宮市千手町
 相場直三郎
 電話 四〇番

諸建築木材供給受負

諸木材廉價販賣

諸建築工事請負業

業務擴張ノ爲メ從來ノ建具類賣場狹隘ヲ感シ肴町通ニ移轉仕候條
 陸續御用命奉願候

宇都宮市日野町
 半都賀屋木材店
 篠崎安平
 電話 一三八番

博覽會共進會於褒狀受領

大評高
 日常ノ食料ト進
 物用ニハ便利ニ
 テ最モ廉價ナリ



製造元

小杉製麵
 品質純良ニシテ
 風味ノ美ナルハ
 弊社ノ特長ナリ

宇都宮市馬場町
 小杉製麵合名會社
 電話 四四四番

肥料麻苧
 藍真繩

宇都宮市本郷町廿八番地
 商號久喜屋
 福田恒吉

電話 三〇六番
 電略 クキヤ又ハキ

公告

明治四十二年本會議所費收入支出左表ノ通り客月三十日定期總會ノ承認ヲ經タリ依テ公告ス 明治四十三年八月

字都宮商業會議所

明治四十一年度經費收入支出決算表

科	目	豫算金額	決算金額	比較増減	備考
第一科	賦課金	二、八二九、五〇〇	二、二七九、一四〇	減五五〇、三六〇	滞納アルニヨル
	營業税金	二、一五〇、〇〇〇	一、七四三、九四〇	減四〇六、〇六〇	
第二科	頭入	六七九、五〇〇	五三五、二〇〇	減一四四、三〇〇	
	雜收	一五八、二二〇	五五七、四〇〇	増三九九、二八〇	
合計	收入	一、五八、二二〇	五五七、四〇〇	増三九九、二八〇	
合計	支出	二、九八七、六二〇	二、八三六、五四〇	減一五一、〇八〇	過年度徴收金額多カリシニヨル

科	目	豫算金額	決算金額	比較増減	備考
第一科	第一科 選舉費	一〇八、五〇〇	八五、三八〇	減二二、一二〇	本年度ニハ選舉費ノ支出ナシ
	第二科 會議費	一〇八、五〇〇	八五、三八〇	減二二、一二〇	會議度數豫定ニヒラサリシニヨル
	第三科 給與費	一〇六、〇〇〇	九五七、〇九〇	減一四八、九一〇	豫定ト大差ナシ
	第四科 報費	七二四、〇〇〇	七一、〇〇〇	減一、三〇〇	給仕ヲ雇入レザリシニヨル
	第五科 賞與費	二二二、〇〇〇	一三〇、五〇〇	減一〇一、五〇〇	豫算ト大差ナシ
	第六科 諸報費	六〇、〇〇〇	五五、〇〇〇	減五、〇〇〇	報酬ヲ要スル事項少ナカリシニヨル
	第七科 雜給	五五、〇〇〇	二六、〇〇〇	減二九、〇〇〇	略ホ豫算ニ同シ
	第八科 旅費	三五、〇〇〇	三四、五九〇	減四一〇	出張豫定ニ上ラザリシニヨル
	第九科 事務所	二〇〇、〇〇〇	一六九、一六〇	減三〇、八四〇	豫定ノ調査ヲ爲ス能ハザリシニヨル
	第十科 調查費	二四五、〇〇〇	一六九、一六〇	減七五、八四〇	公告ヲ要スル事項ナカリシニヨル
第二科	第一科 修繕費	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	同	豫定ノ調査ヲ爲ス能ハザリシニヨル
	第二科 通告費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	同	公告ヲ要スル事項ナカリシニヨル
	第三科 通信費	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	同	豫算ニ同シ
	第四科 消耗品費	八〇、〇〇〇	五二、三四〇	減二七、六六〇	前年度購入品線越多カリシニヨル
	第五科 備品費	七〇、〇〇〇	三三、八一〇	減三六、一九〇	豫定ノ備品購入ヲ見合ハセシニヨル
	第六科 家屋費	一九五、五二〇	三三、八一〇	減一六二、七一〇	應急修繕ヲ要スル個所多カリシニヨル、不足額豫備費ヨリ流用
	第七科 火災保險料	五〇、〇〇〇	七六、四四五	増二六、四四五	豫算ニ同シ
	第八科 借地料	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	同	同上
	第九科 庭園手入れ費	三五、五二〇	三五、五二〇	同	同上
	第十科 印刷費	三〇、〇〇〇	二五、一五〇	減四、八五〇	同上
第三科	第一科 印刷費	三七二、六〇〇	一七七、四七〇	減一九五、一三〇	月報ノ体裁ヲ變更シ價格ヲ低廉ナラシメシニヨル
	第二科 印刷費	三七二、六〇〇	一七七、四七〇	減一九五、一三〇	同上
	第三科 印刷費	一八〇、〇〇〇	一六五、五九〇	減一四、四一〇	聯合會費用豫定ヨリ多カリシニヨル
	第四科 雜費	三〇、〇〇〇	四八、三四〇	増一八、三四〇	實際ヲ要スル事項少ナカリシニヨル
	第五科 雜費	三〇、〇〇〇	一二、一三〇	減一七、八〇〇	略ホ豫算ニ同シ
	第六科 雜費	二五〇、〇〇〇	一一、三〇〇	減二三八、七〇〇	同上
	第七科 雜費	二五〇、〇〇〇	一一、三〇〇	減二三八、七〇〇	同上
	第八科 雜費	二五〇、〇〇〇	一一、三〇〇	減二三八、七〇〇	同上
	第九科 雜費	二五〇、〇〇〇	一一、三〇〇	減二三八、七〇〇	同上
	第十科 雜費	二五〇、〇〇〇	一一、三〇〇	減二三八、七〇〇	同上
合計	收入	二、九八七、六二〇	二、五五七、四〇〇	減四三〇、二二〇	
	支出	二、九八七、六二〇	二、八三六、五四〇	減一五一、〇八〇	

收入決算額 支決算額 差

二、八三六、五四〇 二、二五五、〇五五 五八一、四八八

積立金 要

一金壹千七百參拾四圓參拾壹錢五厘

一金五百八拾壹圓四拾八錢五厘

右合計金貳千參百拾五圓八拾錢

明治四十一年度末現在積立金

明治四十二年度經費剩餘金

積立金 現在金

發行所 宇都宮市旭町一丁目 宇都宮商業會議所 印刷所 宇都宮市一條町七番地 印刷所 三共社印刷所